

第29号

一步前進 校長室からのつぶやき

私自身が思っていること、考えていることをつぶやきたいと思います。

負けるな 嘘をつくな 弱いものをいじめるな



こまつたてわき
小松帯刀

さいごうたかもり
西郷隆盛

おおくぼとしみち
大久保利通

鹿児島で有名な偉人として思い浮かぶ一人は、明治維新を成し遂げた西郷隆盛があがるのではないのでしょうか。他にも大久保利通、小松帯刀などがいますが、こうして国を引っ張ることのできる多くの鹿児島県人が育った理由は、当時の薩摩の教育にあるといわれています。それは、「郷中（ごじゅう）教育」です。「郷中教育」というのは、今でいう町内会ぐらいの組織で25歳ぐらいまでの子どもたちが互いを先生として学び合う、薩摩独自の教育システムのことです。

その「郷中教育」で大切にされてきた教えを紹介すると、

「負けるな 嘘をつくな 弱いものをいじめるな」

という言葉で表現される教えです。

- 「負けるな」とは、人に負けないというよりも、どんな困難にあっても決して自分に負けずあきらめないこと。つまり、なりたい自分に近づいていく勇氣。
- 「嘘をつくな」とは、過ちを犯したときには決して言い訳せず、素直に非を受け入れること。つまり、素直に自分の悪いところを認め、他人から認められる誠実さ。
- 「弱い者をいじめるな」とは、弱い者いじめが最も卑劣で、器の小さい人間のすることだから、慎むこと。つまり、他人の気持ちを想像でき、卑怯なこと、不正なことを憎む心。

ということ意味します。これらのことは、現代でも変わらない、人として忘れてはならない大切なことだと思います。あの頃の薩摩藩では、これらを身に付けるために、子どもたちが、互いに学び合い、鍛え合っていたのです。志布志中学校でも「負けるな 嘘を言うな 弱いものをいじめるな」を身に付けられるよう、学び合い、鍛え合い、支え合って日々努力して欲しいと思っています。